

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	高知西高等学校（グローバル探究）
--------	------------------------------	------	------------------

概要・目的

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、これまでの研究を踏まえた実践の充実・普及と、開校する高知国際高等学校への継承をイメージして協議する。

P	D	C/A
平成30年度の当初計画	平成30年度の実行状況	課題（●）とそれに対応する今後の取組（→）
<p>取組① SGHプログラムの実施と磨きあげ</p> <p>■探究活動</p> <ul style="list-style-type: none">・グローバル探究Ⅰの実施・グローバル探究Ⅱの実施・グローバル探究Ⅲの実施・県内リサーチ（8月）・国内リサーチ 大阪リサーチ（8月） 東京リサーチ（1月）・海外リサーチの実施 台湾・香港・シンガポール・タイ・国際シンポジウムの開催（7月11日）・SGH成果発表会（2月13日） <p>■英語教育</p> <ul style="list-style-type: none">・多読・多聴・多話・多書の推進・英語による探究活動（グローバルエデュケーションⅠ、英語課題探究など） <p>■探究活動に関する教科間連携</p> <ul style="list-style-type: none">・グローバル探究Ⅲ（総合的な学習の時間）、課題論文（国語、学校設定科目）、グローバルエデュケーション（英語科専門科目）、英語課題探究（普通科英語の学校設定科目）の連携	<p>取組① SGHプログラムの実施と磨きあげ</p> <p>■1年：グローバル探究Ⅰ</p> <p>ガイダンス 1回（4/17）1時間、仲間づくりワーク 1回（4/18）2時間</p> <p>高知県の課題を知る 8回（4/25～6/27）16時間 講師14名招へい</p> <p>県内リサーチ 1回（9/12）各グループで県内企業・団体訪問（17社）</p> <p>■2年：グローバル探究Ⅱ</p> <p>ガイダンス 2回（4/12、20）3時間 講師1名招へい</p> <p>リサーチクエストの洗い出し 1回（4/27）2時間</p> <p>グローバル問題の絞り込みと具体化 3回（5/11～6/8）6時間</p> <p>論理的な発表に向けて 1回（6/15）2時間</p> <p>論理的な発表に向けて（途中経過発表会）1回（6/22）2時間</p> <p> 課題及び仮説の設定、解決案の提示 大学教授による指導・助言 8名招へい</p> <p>「夏休みアクションプラン」の具体的な計画作成 1回（6/29）2時間〔2回分中の1回〕</p> <p>■3年：グローバル探究Ⅲ</p> <p>ガイダンス 1回（4/17）1時間</p> <p>個人で関心のあるテーマを設定しリサーチペーパー（論文）を作成</p> <p> 普通科理型・・・2,000字、普通科文型、英語科・・・4,000字</p> <p>9回（4/18～6/27）18時間 全員提出済</p> <p>■グローバルマインドなどの生徒の成長を分析するための生徒アンケートを6月に実施（2月に2回目を実施予定）</p> <p>■国際シンポジウム開催（7/11） 於：高知県民文化ホール（オレンジホール）</p> <p> 午前の部：基調講演 葛城 崇氏 「これからの世の中で輝くために－なぜ英語を勉強するのか－」</p> <p> 生徒発表3（使用言語：英語）3年普通科1グループ、英語科2グループ</p> <p> 午後の部：高知西高生とタレマーシュタイナー高校生とのディスカッション</p> <p> テーマ：「地域創生を支援するためにどうやってSNSを活かせるか」</p> <p>■オーストラリア、タスマニアのタレマーシュタイナー高校（本校提携校）の生徒8名と教員2名来校（7/7～13）</p> <p>■海外長期留学生の受け入れ（2名 9月～6月の10ヶ月間）</p> <ul style="list-style-type: none">・フランス1名、ノルウェー1名 <p>■夏季休業中</p> <ul style="list-style-type: none">・グローバル・リンク・シンガポール2018（シンガポール国立大学）でポスター発表 3年生2名（7/20～24）・オーストラリア語学研修（7/28～8/13）の参加者14名（1年9名、2年5名）・大阪リサーチ（8/2～3）の参加者21名（1年生19名、2年生2名）・海外リサーチ参加者決定とリサーチ活動 台湾リサーチ（9/25～29）1年生8名、香港リサーチ（9/23～27）1年生4名 シンガポールリサーチ（9/23～27）2年生8名 タイリサーチ（11/19～11/22）2年生5名	<p>取組① SGHプログラムの実施と磨きあげ</p> <p>■1年：グローバル探究Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none">●担当する教員（正副クラス担任）は年度ごとに入れ替わっていくので、前年度の経験を教員個人が積み重ねることはできないので、プログラムを進めていく上での教員間の円滑な情報共有を行うこと。→各授業と年間計画の関連性などについて、担任会でその都度説明するとともに、担当教員の声を拾い、丁寧に答える。 <p>■2年：グローバル探究Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none">●SDGsに関わる課題設定を行うに当たって、理型クラスにおいてはできるだけ理系のテーマを設定すること。→年度当初から理型クラスは得意とする理系内容で、SDGsにアプローチする方向で指導する。 <p>■3年：グローバル探究Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none">●1学期末までの短期間で、個人でリサーチペーパーを作成すること。→2年3学期、春休みを利用して、文献検索やテーマ決めを行い、3年次での授業で速やかに作成に取り組めるように、3月のグローバル探究Ⅱの計画を確定する。 <p>■国際シンポジウム</p> <ul style="list-style-type: none">●午後の高知西高生とタレマーシュタイナー高生とのディスカッションにおいて、聴衆をより巻き込んだものとする。→サマリー役の生徒を配置して内容が聴衆に理解できるようにしていたが、もう少しサマリ－の間隔を短くする、スクリーンに概要を提示するなどの工夫を検討する。●研究発表は、2年次のグループ探究から選出しており、選んだグループ研究の内容を国際シンポジウムまでに深化させること。→グローバル探究Ⅱのグループ探究において、参考文献や先行研究の事例をより多く収集するように指導して探究を深めるとともに、リサーチペーパーのブラッシュアップの回数を増やすことにより、探究内容を充実させる。→普通科「英語課題探究」選択者は、2年次のうちから他のグループと分けて授業内での探究活動を開始し、春期休業期間から校外活動等を実施する。●発表指導に関する全体体制の構築。→研究発表内容は多岐にわたるので各教科に協力を依頼し、教科に関するテーマについてメンターとして指導してもらう。生徒との面談が円滑にできるよう予約システムをつくる。 <p>■SGH 指定期間終了後の取組</p> <ul style="list-style-type: none">●SGH後継事業の認定を受ける→後継事業の内容の確認と申請準備（H31）●県単独予算での継続→現行のグローバル探究等の内容の精選と予算の確保（H31）

平成30年度 到達目標

- ・国公立大学合格者100名以上などのAgenda N 2018の目標を達成する。
- ・3年間のSGHプログラムの完成度を高める。

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	高知西高等学校（英語の取組）
--------	------------------------------	------	----------------

P平成30年度の当初計画

D平成30年度取組状況

C課題（●）とそれに対応する今後の取組（→）

<p>取組① SGH 課題研究として行う英語の取組</p> <p>英語活用力の育成（オールイングリッシュで探究活動）</p> <p>（2年次）「英語表現Ⅱ」「グローバルエデュケーションⅠ」で、「信念／信仰と食」「食とフェアトレード」「言語／習慣と食文化」のサブテーマに基づいて、少人数編成講座で、海外生徒等とのディスカッション等も活用して英語での探究活動を深化させる。</p> <p>（3年次）「英語課題探究」の選択生徒と英語科の生徒は、本校 SGH 事業の集大成として行う「国際シンポジウム」を運営し、英語で成果発表を行う。</p>	<p>取組① SGH 課題研究として行う英語の取組</p> <p>（2年次）「英語表現Ⅱ」「グローバルエデュケーションⅠ」——ALT との TT、または外国人講師による授業「信念／信仰と食」「食とフェアトレード」「言語／習慣と食文化」のサブテーマに基づき、</p> <p>①全体でサブテーマ入門</p> <p>②グループでサブテーマに関する論題を選択して探究し、論拠を明らかにした発表原稿と資料を作成する。クラス内プレゼンを行う。</p> <p>③個人でサブテーマに関する論題を選択した探究し、論拠を明らかにした発表原稿と資料を作成する。ポスターセッション形式でプレゼンを行う。</p> <p>（3年次）「英語課題探究」「グローバルエデュケーションⅡ」——「国際シンポジウム」に向けての準備としてプレゼン内容の決定、英訳、プレゼン練習を行った。「グローバルエデュケーションⅡ」については、今年初めての試みとして、英語科 3 年生全員がかかわるように、発表・司会・ディスカッション（意見発表・日本語要約）・パンフレット作成のグループに分かれて、準備を行った。</p> <p>①成果発表としての研究発表 3 本（英語科 2 本＋普通科「英語課題探究」選択者 1 本）——すべて英語で発表、質疑は一部日本語を含む</p> <p>‘She Can’t Say No’ 児童婚と女性器切除</p> <p>‘The Water Crisis Is Coming Soon’ 水不足からは逃げられない</p> <p>‘How Can We Revitalize Agriculture in Kochi’ 高知県で稼ぐ農業～3 4 市町村の魅力を活かすには～</p> <p>②「国際シンポジウム」——「地域創生を支援するためにどうやって SNS を活かせるか」について英語による意見発表及び質疑応答、日本語要約担当生徒による発表</p> <p>③「国際シンポジウム」の運営</p> <p>司会進行（本校英語科生徒 2 名）</p> <p>発表者（オーストラリアの提携校の生徒 8 名と本校英語科生徒 5 名）</p> <p>日本語要約担当（本校英語科生徒 3 名）</p> <p>* 3 年英語科生徒全員によるパンフレット作成、司会進行、聴衆を巻き込んだ発表づくり、海外交流校の生徒を含めたシンポジウム運営など、初の試みが多かったが、英語科の担当の先生をはじめ、ALT や外国人講師の先生方の積極的なサポートのおかげで、英語での司会やディスカッションの流れはスムーズであり、発表については高い評価を受けた。</p>	<p>取組① SGH 課題研究として行う英語の取組</p> <p>（2年次）「英語表現Ⅱ」「グローバルエデュケーションⅠ」</p> <p>●探究活動において問題を掘り下げる力の育成。書籍やインターネットで調べることは、「グローバル探究Ⅰ」で慣れている。</p> <p>→英語に直す前に、細やかに面談を行うなど、根拠が妥当であるかチェックする時間を十分確保するような工夫が必要である。</p> <p>●聴衆の英語レベルを踏まえたプレゼンテーションの工夫。英語での発表はある程度のレベルまで来たが、聴衆はその内容の理解に至らないことが多い。そのため、意義ある質疑応答になりにくい。</p> <p>→内容が難しいものもあるが、語彙リストを作成するなど、できるだけ易しい表現を使って発表するように指導する。</p> <p>（3年次）「英語課題探究」「グローバルエデュケーションⅡ」</p> <p>●英語課題探究については、講座を分けて、一つの講座として編成すること。時間割の関係で、2 つのグループに分けて授業を行わなければならなかったため、リサーチが必要な部分の洗い出し等、情報共有にかなりの時間を要した。</p> <p>→講座を編成する段階で、教務部と調整する。</p> <p>●グローバルエデュケーションⅡについては、英語の絶対量を増やすこと。</p> <p>→日本語でのリサーチを止めるのは現実的ではないため、できるだけリサーチを授業外で行い、授業内は英語でまとめたり、発表の練習をする時間に充てるように指導を行う。</p> <p>●海外交流校の生徒とのディスカッションにおいて、英語を聞き取りやすくする工夫をすること。</p> <p>→内容が聴衆に理解できるように、日本語要約担当の生徒を配置していたが、要約する場面をもう少し頻繁にするなどの工夫を検討する。</p>
<p>取組② SGH 課題研究外として行う英語の取組（主に 1 年次）</p> <p>①多読——年間で 2 5 万語を目標に各自の関心とレベルにあった英語図書を読む活動</p> <p>・未知語に遭遇しても類推しながら読み進める力を養成する。</p> <p>・学習用に編集された英語ではなく、自然な英語表現に慣れる。</p> <p>②多聴——Voice of America 等インターネット上の英語学習サイトを利用した、英語の要点を聞き取る活動</p> <p>・連結、脱落などの特徴を理解し、自然な状況で話された英語の要点をつかむ力を養成する。</p> <p>・自然に近いスピードで話された英語を聞き取ることに慣れる。</p> <p>③多書——毎週 1 0 0 語程度のまとまりのあるパッセージを書く活動</p> <p>・具体例等を交えながら、論理的に英語で考えをまとめて書く力を養成する。</p> <p>・日本語を解しない人が要点を理解できる英文を書く力を養成する。</p> <p>④多話——ディベートやディスカッションの形式を利用し、多書活動と関連付けて行うスピーキング活動</p> <p>・論理的に英語で考えをまとめて口頭で伝える力を養成する。</p> <p>・日本語を解しない人が要点を理解できる英語で話す力を養成する。</p> <p>・話し手、聞き手の双方の立場から、発言内容が理解されるように工夫する力を養成する。</p>	<p>取組② SGH 課題研究外として行う英語の取組（主に 1 年次）</p> <p>①多読（今年度は、校舎改築のため使用できる教室が限られており、多読活動を十分に確保できていない。）</p> <p>・学年やクラス毎に目標語数を定めて、できるだけ多くの英語を読む活動を授業内外で実施</p> <p>・多読入門期——授業の一部を使って、自分のペースで英語の本を読み、input log（ペーパー）に感想を書き、進捗管理</p> <p>多読初級者——授業の一部を使って、インターネット上のサイト M-reader で理解テストを受け、進捗管理</p> <p>多読中級者——授業の節目で多読に関するオリエンテーションを行い、授業外で多読を進める。</p> <p>②多聴——Voice of America 等インターネット上の英語学習サイトを利用した、英語の要点を聞き取る活動</p> <p>・ネイティブ・スピーカーの活用</p> <p>③多書——毎週 1 0 0 語程度のまとまりのあるパッセージを書く活動</p> <p>・1 年、2 年とも週 1 回英作課題</p> <p>・授業内の帯活動として、スピードライティングの実施</p> <p>・課題と同様の形式で定期テストに出題</p> <p>④多話——ディベートやディスカッションの形式を利用し、多書活動と関連付けて行うスピーキング活動</p> <p>・（1 年）外国人による単独授業で話す活動を多く実施</p> <p>・授業内の帯活動として、ペア活動やスピーチ、ディベート、プレゼンテーション等、多話活動時間の設定</p>	<p>取組② SGH 課題研究外として行う英語の取組（主に 1 年次）</p> <p>●多読活動を継続して行えるようにタブレット PC などの機材が使用できる教室の確保。</p> <p>→校舎の改修により wifi が使用できない教室があったが、整備は進んでいるのでほぼ改善された。今後も教務部と連携して、教室の調整を行う。</p> <p>●自然な英語力獲得のためにどの程度寄与しているかの検証。</p> <p>→2 年次、3 年次で必要とされる英語力の獲得に向けて、1 年次の個々の活動が基礎力獲得につながっているかどうかを定期試験やパフォーマンステスト、また模試などの外部試験の結果を参考に分野別に分析し、苦手分野の指導を強化する。</p>
<p>取組③ 目標とする英語力</p> <p>・英語検定の取得</p> <p>1 年：準 2 級 普 50%、英 100% 2 級 英 20%</p> <p>2 年：準 2 級 普 80% 2 級 普 10% 英 50%</p> <p>3 年：2 級 普 20% 英 100% 準 1 級 英 3 名</p> <p>・SGH 対象生徒の卒業時における生徒（3 年英語科＋3 年普通科文型）の 4 技能の総合的な英語力として EFR の B1～B2 レベルの生徒の割合を、8 0 %以上とする。</p>	<p>取組③ 目標とする英語力</p> <p>・1、2 年については学年で一度は受検できる体制づくり（保護者の了解を得て、受検費用を集金済み）</p> <p>第 1 回の英検は 240 名が受験し、83 名（準 2 級 3 9 名、2 級 4 4 名）が合格した。</p> <p>・英語検定の取得状況（平成 3 0 年度第 1 回検定結果まで）</p> <p>1 年：準 2 級 普 6.3%、英 45% 2 級 英 2.5%</p> <p>2 年：準 2 級 普 78% 2 級 普 0.8% 英 62.5% 準 1 級 英 1 名</p> <p>3 年：2 級 普 20.9% 英 95%</p> <p>・3 年 SGH 対象生徒（英語科＋普通科「英語課題探究」選択者）の、現在における CEFR の B1～B2 レベルの生徒の割合 87.5%</p> <p>（英語検定 2 級以上合格者の数を根拠とする）</p>	<p>取組③ 目標とする英語力</p> <p>●英検取得率を向上させる</p> <p>→英語科で協議しながら、長期休業中の課題や英語の授業の中で、筆記試験・面接試験の過去問題を解かせて系統立てた指導を強化する。</p> <p>→土曜補習や放課後を利用してリスニング指導や個別面接指導を充実させる。</p> <p>→授業で既習した分野の得点率が高い傾向があるので、1 年生は合格の可能性の高い第 3 回で受検させる。（昨年度の取得率 67.1%）</p> <p>→2・3 年生は、長文読解で得点率が低い傾向がある。文法事項の定着が弱いことが原因であると考えられるので、構文を意識した読解指導を強化するとともに苦手な設問形式の読解力を養う。</p>